広島大学　高等教育研究開発センター　大学論集
第 34 集（2003年度）2004年３月発行：63－76

大学教育カリキュラムの国際化

―オランダの事例研究―

黄　　福　涛

大学教育カリキュラムの国際化

―オランダの事例研究―

黄　　福　涛*

はじめに

1980年代後半から，EU諸国において，エラスムス計画をはじめとする様々な人的な交流計画が打ち出された。1990年代以降，経済などのグローバル化の進展及びEU諸国における統一労働市場の形成に伴い，高等教育の国際化が一層盛んに行われるようになってきた。特に1999年に27のEU諸国によって採択された『ボローニャ宣言』は，ヨーロッパにおける高等教育の国際化に大きな影響を与えてきた。近年，EU諸国がその宣言の目標に向けて，ヨーロッパ次元（European Dimension）の高等教育の創立を目指す一方で，各国の政治的，経済的及び文化的な背景に基づいて，高等教育の国際化に関する様々な方策が実施された。その中で，特にオランダにおいては，この10数年間にわたって，英語による授業の増設をはじめとする大学教育カリキュラムの国際化が特に注目を集めている。以下では，主に1990年代以来のオランダにおける大学教育カリキュラムの国際化に焦点をあてて，その高等教育の国際化の政策，実態，進展などを取り上げることにする。

なお，カリキュラムの定義は多様であるが，本論文において用いられるカリキュラムの概念は，ある学問分野や専攻において，学士，修士，博士学位の獲得を目的とする系統的に開設される教育課程や科目群を意味するものだけではなく，学位や資格，証書が授与されない短期コース，プログラム，あるいは一つの科目なども指している。

１. 高等教育システムの概要

オランダにおける高等教育システムは大きく三つの機関から構成されている。すなわち，大学（university），専門大学（university of professional education）と国際教育機関（institute for international education）である。2002年12月現在，その機関数はそれぞれ13，56と15であった。また13の大学はさらに９つの総合大学，３つの工科大学と１つの農業大学に分けられる。大学は主に学者と研究者の育成を中心に，教育活動と科学研究を行い，特に「古典」大学と呼ばれるアムステルダム，フローニンゲン，ライデン，ユトレヒトという４つの大学は人文，社会，自然科学などのプログラムを提供する一方で，幅広い分野の研究も行い，またその卒業生の多くは研究機関に勤めている。それに対して，専門大学は，学生に専門的職業人として必要な知識・資質を身につけさせるため，専門性・実践性が高い科目を開設している。大学と違って工科大学においては，学生は３年次から約一年間，海外や地元の企業会社などで実習（internship）を行う義務を負っている。国際教育機関は，

＊広島大学高等教育研究開発センター助教授

1950年代にオランダ政府によって，発展途上国への国際支援を目的として設けられた機関であり，基本的には農業，工科，経済・管理などの科目を中心に，特に外国留学生に向けて，短期研修コースからPhD学位課程まで様々なプログラムを提供している。こうした機関においては，ほとんどの授業が英語で行われているが，学生のニーズに合わせて，フランス語とスペイン語による授業も開設されている。

財政に関して言えば，大学の予算は基本的にはその一年生の人数，大学から授与された資格及び博士号の数によって，すべての経費が教育部とほかの省庁から一括で配分されているのに対して，専門大学には毎年政府から約90％の予算が配分される以外に，各機関は授業料の徴収や契約研究などのチャンネルを通じて資金調達もできる。また国際教育機関は，主に発展途上国からの留学生を対象に教育・研究の支援を行う機関であるため，その予算のほとんどがオランダ政府や，EUの関係団体及びほかの国際基金組織などによって支えられている。

高等教育の進学率からみると，2002年12月現在，17歳から20歳までの年齢層では，約20％の若者が大学や専門大学などに進学している。そのうち，約65％は大学に入って，残りの約30％は専門大学などの職業教育機関に進学している[1)]。

2. 国際化に関する政策，計画，プログラム

前に述べたように，1980年代後半からエラスムス計画を契機に，オランダ教育部によって，高等教育を含めたすべての段階の教育に対してより国際的な性格が求められる政策が打ち出された。近年，そうした政策がさらにいくつかの具体的な文書・方策になってきた。特に1999年以来，『ボローニャ宣言』の採択に伴い，オランダにおける高等教育の国際化が新しい段階に入ってきたと言える。

教育の国際化について具体的にみると，教育の質を向上及び教育政策と外交政策とを融合（harmonize）し一体化させるという二つの目標が，オランダ政府によって立てられている[2)]。それに基づいて教育部もさらに３つの方針を制定してきた。すなわち，第１に各大学が個別の事情によって，もっと自主的かつ自由に国際化を進めること，第２に教育部は高等教育の領域において，積極的にオランダと協力する国を見つけること，第３に教育部は教育の国際化と政府の外交政策との連携を一層強化させることである[3)]。

1980年代まで，オランダにおける高等教育の国際化は，主としてアフリカなどの発展途上国からの留学生や学者を招聘する一方で，自国の学生をアメリカやイギリス，オーストラリアなどの英語圏へ勉強のために派遣する形で行われてきた。しかし近年来，この状況は大きく変わってきた。具体的には，EUの統合及び経済などのグローバル化の進展に伴い，オランダにおける高等教育の国際化は，主にアメリカをはじめとするカナダやオーストラリア，日本などのEU以外の先進諸国，またイギリスやフランス，ドイツなどの国々を中心とするEU諸国，さらにアジアにおける多くの発展途上国という３つの地域を対象に，展開されている[4)]。特に「ヨーロッパ次元」の高等教育システムの確立を目指す一環として，英語による教育プログラムの開発は急速に実施されており，高

等教育の国際化に重要な役割を果たしていると見られる。つまり，近年来，オランダの各高等教育機関においては，交換留学生，教職員などの国際的な人的流動が促進される一方で，特に外国人留学生と自国学生に向けて，英語による授業科目の増設と国際化されたカリキュラムの開発が盛んに行われてきているのである。以下では，まず，オランダにおける英語によるカリキュラムの現状と進展を取り上げ，次に，アムステルダム大学とライデン大学を中心に，オランダ語で提供される国際化されたカリキュラムの開発について検討してみよう。

３. 英語による大学教育プログラムの開発

⑴ 履修対象

近年，中国や日本，インドネシアなどの東アジア及び東南アジアとの間の人的流動が盛んになっているが，図１からわかるように，実数では依然としてEU諸国との間でのそれが特に目立つ。EU諸国から入ってくる方をみると，ドイツ，モロッコ，ベルギー，トルコなどの人数が多く，上位４番まで示している（図２）。一方，図３が示すように，オランダからEU諸国へ出て行く方の内訳をみると，イギリスへの人数がもっとも多く，スペイン，フランスとドイツなどがそれに続く。国際的な人的流動の視点からみると，オランダはアメリカ，イギリス，オーストラリアなどの英語圏諸国及び日本や中国などの国々と異なって，アジア諸国との交流が少なく，基本的にはEU諸国の間において国際化が進展している。

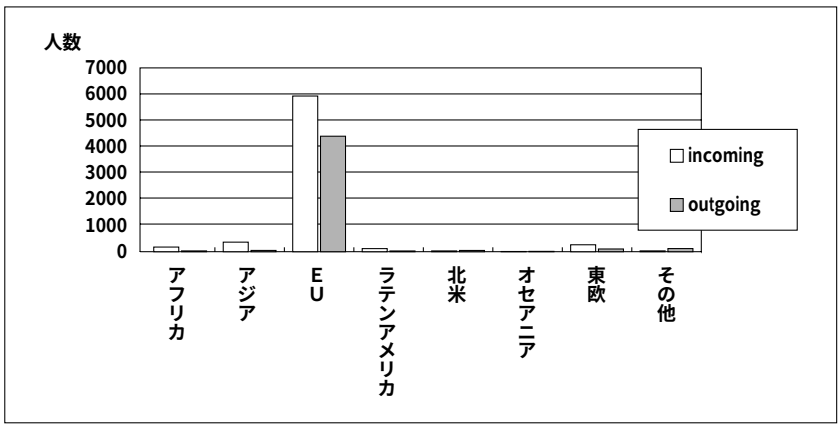
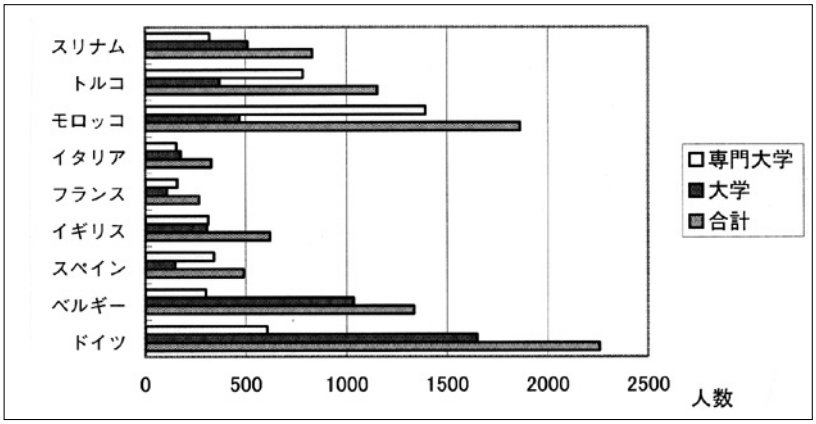


図１. 1999-2000**年度における人的流動（地域別）**

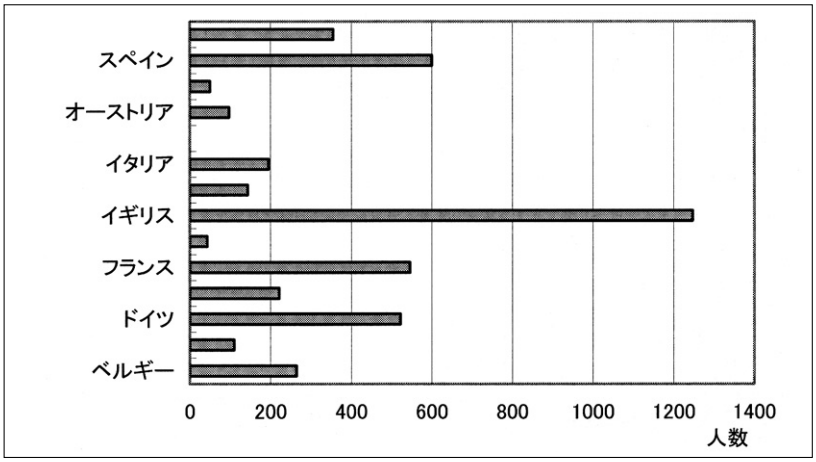
人数＼地域	アフリカ	アジア	EU	ラテンアメリカ	北米	オセアニア	東欧	その他
外国からの入来者数（Incoming）	179	368	5982	119	31	9	267	32
オランダ人の留学者数（Outgoing）	31	50	4438	29	49	14	105	121

出典：*BISCN Monitor of International Mobility in Education 2001*, European Platform, Cinop, Nuffic. Compiled on Assignment for the Netherlands Ministry of Education, Culture and Science. P.50.



出典：www.CBS.nl（2003年４月26日）のデータに基づいて作成された。

図２. 1999-2000**学年オランダの大学における留学生の内訳（国別）**



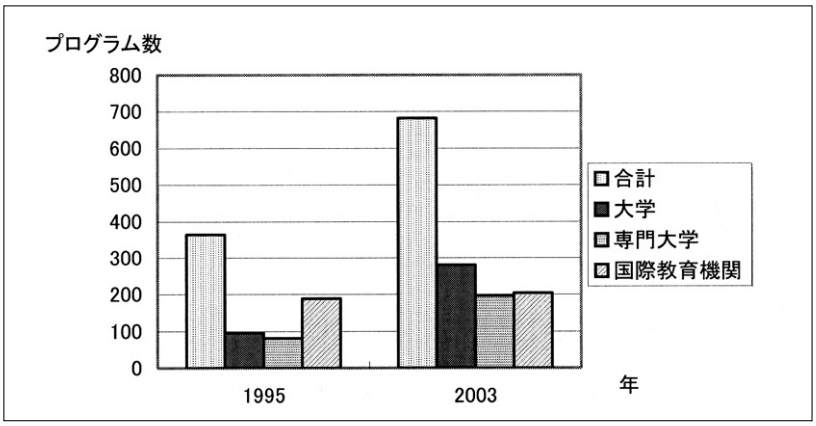
出典：*BISCN Monitor of International Mobility in Education 2001*, European Platform, Cinop, Nuffic. Compiled on Assignment for the Netherlands Ministry of Education, Culture and Science. P.50.

図３. 1999-2000**学年度オランダ人学生の留学先（国別）**

⑵ 英語によるコースの開発

前に述べたように，1950年代から，オランダにおいて，既に英語による授業が行われている国際教育機関が成立してきたが，1990年代以来こうした機関だけではなく，従来からオランダ語による授業が行われている大学と専門大学においても，英語によるプログラムが発展してきた。図４によると，1995年の時点と比べて，2003年においては，英語による授業科目総数がほぼ倍に増えてきたことがわかる。またそのうち，国際教育機関における英語によるプログラムの増加がほとんど見られていないのに対して，専門大学や特に大学における英語による授業科目の増加が目立つのである。 つまり1995年以後のオランダにおいては，従来とは異なって，特に発展途上国からの留学生

を対象に教育支援を目的とする国際教育機関に限らず，普通の大学機関においても英語によるプログラムが設置されるようになってきたのである。

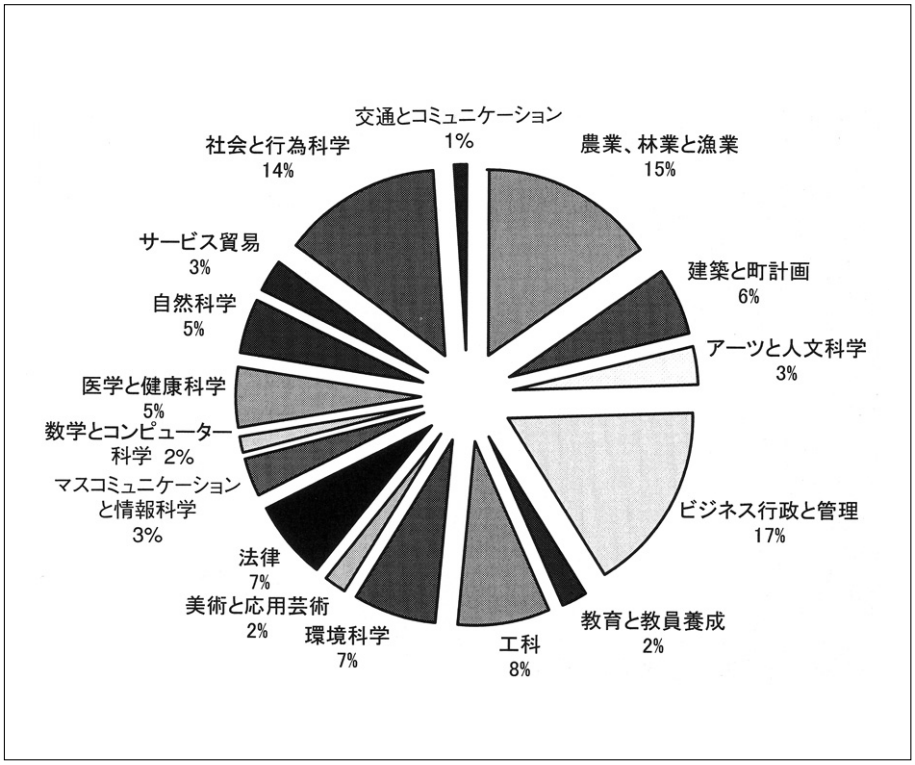


出典：M.C. van der Wende. *Internationalising the Curriculum in Dutch Higher Education: an International Comparative Perspective.* The Hague, The Netherlands, 1996. pp. 57,64,66.　及び http://www.nuffic.nl/study/（2003年４月27日）のデータに基づいて作成された。

図４. 1995から2003年までの各機関における英語によるコースの変化

⑶ 学問分野

英語によるプログラムを学問分野別にみると，図５に明らかなように，ビジネス行政と管理に関するプログラムが全体の17%を占めており，もっとも多い。続いて，農業，林業，漁業に関する分野が全体の15%で二番目を占めている。そして社会と行動科学に関するプログラムは，全体の14%で三番目となっている。また，工科系のプログラムは四番目に数えられるが，プログラム全体の８%を占めるに過ぎない。これらのデータによると，近年，オランダにおいても，英語圏諸国と同じMBAなどの国際的に求められるようなカリキュラムの開発が盛んに進んでいることがわかる。しかし農業などの科目数が全プログラムに大きなシェアを占めていることは，ヨーロッパにおける農業大国であるオランダが，ビジネス・管理などの国際的に通用するような専門職プログラムを発展させる一方で，自国の特色を生かした科目を英語で提供することを通して，留学生を引き受けたり，海外へ発信したりしていることを反映していると言えるであろう。



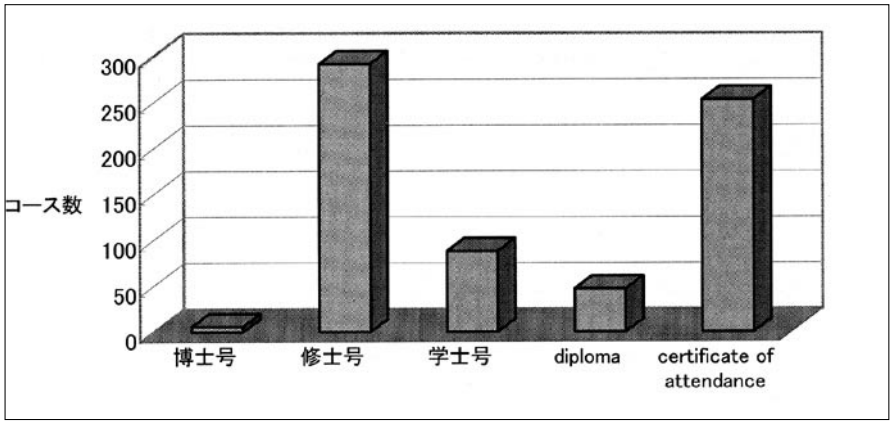
出典：http://www.nuffic.nl/study/（2003年４月27日）のデータに基づいて作成された。

図５. 2002-2003**学年オランダの高等教育機関における英語によるコースの内訳（各分野の構成比）**

⑷ 学位号，資格と開設期間

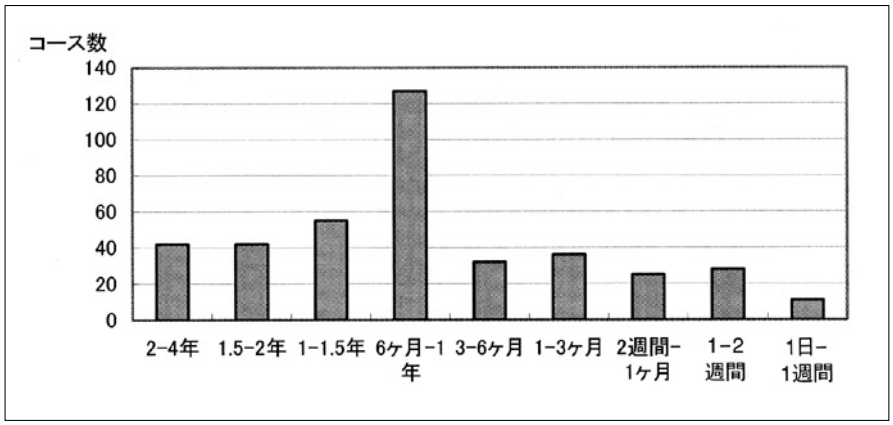
英語によるコースを通して得られる学位号・資格の種類をみると，図６に見られるように，修士学位と出席証明書（certificate of attendance）が授与されるプログラムの数が特に目立っており，それぞれ上位一番目と二番目まで占めている。また，学士，修士と博士の学位課程プログラム（degree-conferring programs）をあわせてみると，それらが全体の半分以上になる。そのうち，特に修士課程プログラムが大きなシェアを占めていることがわかる。

他方，英語によるプログラムの開設期間をみると（図７），英語によるコースの開設期間が多種多様であると言える。すなわち，２年間から４年間のコースがあれば，１日から１週間のコースもある。ただそのうち，やはり６ヶ月以上のコース数が多く，全体の三分の二ぐらいを占めており，特に６ヶ月から１年間のコース数はトップとなっている。要するに，英語によるコースはほとんど長期の学位，特に修士課程コースということである。



出典：http://www.nuffic.nl/study（2003年４月26日）のデータに基づいて作成された。

図６. 英語によるコースに関する学位号・資格別（2002-2003）



出典：同上。

図７. 英語によるコースの開設期間（2002-2003）

４. 国際化されたカリキュラムの開発

1990年代以来，英語によるコースが大きく発展してきた一方で，オランダ語によるカリキュラムの国際化も急速に展開されてきた。以下では，2003年３月中旬ごろ，現地で実施した訪問調査やインタビュー及びほかの関連資料に基づいて，アムステルダム大学とライデン大学の事例を中心に，オランダ語によるカリキュラムの国際化の実態を取り上げてみよう。

⑴ アムステルダム大学の事例

アムステルダム大学は，1632年に成立し，オランダにおける４つの「古典」総合大学の１つである。2003年現在，大学は７つの学部から構成されている。すなわち，歯学，経済，人文，法律，医

学，理学，社会と行動学部である。また2000－2001年度に，学生全体21,908人のうち留学生は2,150人で，全体の十分の一ぐらいを占めていた。留学生の内訳をみると，交換留学生は450人，オランダ語による授業の在学者は1,190人，英語による授業の在学者は510人であった[5)]。

2003年３月の時点では，アムステルダム大学におけるオランダ語によるプログラムが全体の38%であるに対して，英語によるプログラムは全体の半分以上で，62%までに達成している。[6)] ここで特に指摘しておきたいのは，こうした英語によるプログラムは単に外国人留学生に設けた科目ではなく，オランダ人学生も参加できる科目だということである。また，英語とオランダ語による国際化されたプログラム（表１）をみると，オランダ語によるプログラムのほとんどが外国語や言語学などの科目であるのに対して，英語で提供されるプログラムは様々であり，特に国際的専門職を目的とした教育科目が多いということである。さらに，表２に見られるように，英語で提供されるプログラムが学士，修士と博士課程からなっているのに対して，オランダ語によるプログラムの構造は基本的には従来の三年間のプログラムに１年間や２年間のプログラム（医学の場合は，６年間である）を付け加えられたことによって，学士と修士課程という二つのレベルから構成されるようになってきた。そのうち，特に英語によるプログラム全体の中で修士学位課程が大きなシェアを占めている。

表１. アムステルダム大学における英語とオランダ語による国際化されたプログラム

種類 ／ 国際化されたプログラム	英語	オランダ語
１．外国・国際的内容を持つプログラム	3	
２．国際・比較的方法を加えたプログラム	2	
３．国際的専門職を目的としたプログラム	10	
４．外国語や言語学などのプログラム	2	10
５．地域研究や広域研究に関するプログラム	7	1
合　　計	24	11
国際化されたプログラムが全体に占める比率	25.5%	18.9%

出典：*International Study programmes 2002-2003.* University van Amsterdam. Service & Informatiecentrum. Binnengasthuisstraat 9. 1012 ZA Amsterdam. The Netherlands.

表２. アムステルダム大学における英語とオランダ語によるプログラムの学位号（2002-2003）

合計 ／ 学位	英語によるプログラム	オランダ語によるプログラム
	94（全体）	58（全体）
学　位	修士　77	修士　３年（修士課程）＋１年（人文・社会科学） ３年（修士課程）＋２年（数学と自然科学） ６年　（医学）
	博士　８	

出典：同上。

⑵ ライデン大学の事例

ライデン大学は1575年２月の創立で，オランダにおいてもっとも古い大学である。2003年現在，９つの学部からなっている。すなわち，考古学，文学，数学と自然科学，医学，哲学，社会と行動科学，神学と創造と公演芸術学部（Creative and Performing Arts）である。また2000-2001学年には，学生全体数は13,764人で，そのうち留学生数は822人であった。こうした留学生は，ほとんど法学，文学，社会と行動科学学部に集中しており，それらの人数はそれぞれ318，138，88人であった[7)]。

大学教育の国際化の一環として，近年，ライデン大学も数多くの英語によるプログラムや国際されたプログラムを開設してきた。具体的には，以下のような二つの特徴が挙げられている。

第１に表３で明らかにしたように，2002-2003学年度には，オランダ語によるプログラムが48であるのに対して，英語によるプログラムは52であり，アムステルダム大学と同じく，後者がプログラム全体の半分以上を占めている。また，プログラム全体の構造と学位の種類をみると，表５でも提示されているように，どちらでも学士課程と修士課程という二重構造をとっている。そのうち，英語によるプログラムの多くは修士課程科目である一方，オランダ語によるプログラムの構造は，基本的には従来の３年間の学士課程に，2002年秋から新たに１年や２年の学習期間を付け加えたうえで，学士課程と修士課程からなる二重構造をとるようになってきた。

表３. ライデン大学における英語とオランダ語によるプログラム（2002-2003）

合計 ＼ 学位	英語によるプログラム	オランダ語によるプログラム
	52	48
修士プログラム	46	３年（学士課程）＋１年（人文・社会科学） ３年（学士課程）＋２年（数学と自然科学） ６年　（医学）

出典：Leiden University Programmes. June 2002及びhttp://www.leiden.edu/（2003年４月20日）に基づいて作成。

第２に，国際化されたカリキュラムの類型という視点からみると，表４に現れているように，オランダ語によるプログラムはすべて外国語教育科目，または言語学のカリキュラムであるのに対して，英語によるプログラムは言語学の科目以外に，国際的専門職を目的とした科目や，地域研究などの科目，二重学位と合同学位などのカリキュラムも開設されている。また，こうした二重学位と合同学位に関するプログラムは，イギリスやオーストラリアをはじめとする先進国の大学と連携し，共同で開設したものもあれば，トルコやインドネシアなどの発展途上国と協力し，提供したものもある。

表４. ライデン大学における英語とオランダ語による国際化されたプログラム（2002-2003）

種　類 国際化されたプログラム	英語	オランダ語
１．外国・国際的内容を持つプログラム		
２．国際・比較的方法を加えたプログラム		
３．国際的専門職を目的としたプログラム	5	
４．外国語や言語学などのプログラム	4	
５．地域研究や広域研究に関するプログラム	7	
６．二重学位や合同学位などのプログラム	5	
合　　計	21	20
国際化されたプログラムが全体に占める比率	40.4%	41.7%

出典：Leiden University Programmes. June 2002.

おわりに

以上で分析したことからみると，オランダにおいては，高等教育の国際化が進展するに伴い，大学教育カリキュラムの構造と内容などに次のような大きな変化が見られている。

まず，もっとも大きな変化としては，大学と専門大学においては，『ボローニャ宣言』に基づいた「ヨーロッパ次元」の高等教育システムの実現を目指して，学士課程カリキュラムが形成されたという点があげられる。特に大学においては，従来の単一の構造を変えて，学士課程と修士課程からなる二重構造の大学教育カリキュラムが出来上がってきた。また，従来のように，大学と専門大学との間の壁を乗り越えて，二つの機関において，単位互換やプログラムの相互履修というシステムが実現されてきた。

次に，非英語国であるオランダは，主に英語によるプログラムの増加を通して，大学教育カリキュラムの国際化を促進する一方で，オランダ語によるプログラムの国際化も進めている。また，オランダ語によるプログラムがすべて外国人留学生に開設されている一方で，英語によるプログラムも，単に外国人留学生に向けているだけではなく，オランダ人学生も履修できるものである。しかし，以上の二つの大学の事例をみると，英語によるプログラムは，主に修士レベルにおけるビジネスと管理などの国際的専門職を目的として学生を教育するカリキュラムであるのに対して，オランダ語によるプログラムは，異文化間コミュニケーションの諸問題への対応や異文化間相互作用技能の訓練を目的とする外国語教育もしくは言語学のカリキュラムが多い。要するに，オランダにおいては，大学教育カリキュラムの国際化は，基本的には英語による修士課程レベルにおいて行われていると考える（表５）。

結論として言えるのは，1990年代後半以来，オランダにおける大学教育カリキュラムの国際化は，従来のように特に設けた教育組織において，特定の対象に，主に国際支援を目的として展開されるものから，次第に外国人留学生と自国学生の両方を対象に，主として英語による修士課程カリキュラムの開発を通して，すべての教育機関において展開されるものへと転換されつつあるということである。

表５. オランダにおける国際化されたカリキュラムの特徴

区　　分	英語によるプログラム	オランダ語によるプログラム
履修対象	主にEU諸国の留学生と自国学生	主に自国学生
学問分野	国際的専門職や地域研究・広域研究など	外国語教育科目や言語学
学位号・資格	修士号と出席証明書が授与されるプログラムが多い	学士課程プログラムが多い
教育担当組織	大学，専門大学及び特に設けた施設	主に大学における各専門学部
開設期間	６ヶ月以上のプログラムが多い	基本的には３年間
実施形態	主に系統的なカリキュラム	系統的なカリキュラムとinternshipや二重学位など
古典大学におけるカリキュラム全体に占める比率	50%以上	50%以下

付記：本稿は平成15年度科学研究費補助金（基盤研究（Ｃ）（２））『グローバル化の進展に伴う学士･大学院課程カリキュラムの国際化に関する比較研究』による研究成果の一部である。

【注】

１）http://www.vsnu.nl/（2003年４月20日）

２）*Knowledge Give and Take: internationalization of education in the Netherlands*, Policy paper in 1999.

３）*BISCN Monitor of International Mobility in Education 2001*, European Platform, Cinop, Nuffic. Compiled on Assignment for the Netherlands Ministry of Education, Culture and Science. P.10.

４）2003年３月11日にNufficで行ったインタビューによる。

５）2003年３月13日にアムステルダム大学で行ったインタビューによる。

６）http://www.english.uva.nl/education/（2003年４月20日）からのデータに基づいて算出された。

【参考資料】

Hans de Wit, *Internationalization of Higher Education in the United States of America and Europe- A Historical, Comparative, and Conceptual Analysis*, Greenwood Press, 2002.

Jurgen Enders and Oliver Fulton（Eds.）, *Higher Education in a Globalising World*, Kluwer Academic Publishers, 2002.

江淵一公著『大学国際化の研究』玉川大学出版部，1997年。

坂本　昭著『ECの教育・訓練政策―ヨーロッパ市民への模索』

Internationalization of University Curriculum: Case Study of the Dutch Universities

Futao HUANG*

With the issue of Bologna Declaration and realization of a European Dimension in higher education, internationalization of the university curriculum in the Dutch universities has taken on a new appearance. First, university education has come to be composed of undergraduate and master-degree programs, characterizing a two-tiered structure. Second, while Dutch-taught programs that are mainly concerned with cross-culture and foreign languages at the undergraduate level have been largely increased, much more emphasis has been placed on development of English-taught programs in preparation for international professions or for those of internationally recognized qualifications at the master-degree level. Third, internationalized programs, especially English-taught programs, are not only provided as they used to be in some institutes devoted to international education, but also offered increasingly in research universities and even in professional universities. Finally, the development of English-taught master programs are regarded as an increasingly important way to internationalize the university curriculum in the Netherlands and are offered to both international and domestic students.

*Associate Professor, R.I.H.E., Hiroshima University